

東京大学での所属学部/研究科・学年(渡航開始時): 法学部・4年

留学先大学: パリ政治学院 留学先所属学部/研究科等:

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業  
6.起業 7.その他( )

**留学先大学の概要**  
 フランスの社会科学系トップクラスの大学。官僚を多数輩出している。

**留学の動機**  
 ヨーロッパからの政治、経済、社会の見方を学びたいと考えた。

**留学の準備**

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)  
 分からないことがあれば何でも必ず担当先に問い合わせるように心がけるべき。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)  
 1ヶ月なのでビザは不要。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
 海外旅行傷害保険に加入。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)  
 法学部の場合、冬学期試験期間と重なるため、その点の確認が重要になる。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど  
 プログラムで扱う学習内容を日本語文献でよいので学んでおくと、授業内容の理解が容易となろう。  
 英文エッセーの執筆経験があるとよい。

**学習・研究について**

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)  
 授業はパワーポイントを使った講義が中心となる。主体的な参加がなければ楽しめないのは日本と同様。

④学習・研究面でのアドバイス  
 授業は前期教養レベルであり、3年生以上は物足りないと感じるかもしれない。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等  
 授業は英語であるが、日常生活で少なからずフランス語と触れることとなる。  
 フランス語を学ぶ意欲がなければ1ヶ月をパリで過ごす意義が大いに減退してしまうであろう。

**生活について**

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)  
 Sciencespo 側の斡旋でアパートホテルに滞在した。話に聞く限り、例年ほとんどの参加者がこの形態をとるようである。相部屋で、キッチンつきである。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)  
 東京よりも概ね寒冷である。寒い日には最低気温が-10℃前後まで低下するため、防寒具の準備は怠りなく。  
 大学はパリの中心部にあり、メトロを利用すればアクセスしやすい。  
 お金は日本で両替した現金とクレジットカードを利用した。クレジットカードが広く利用できるの、管理の観点からは現金よりもクレジットカードをメインとした方がよいように思う。ただその場合は限度額を引き上げておくことを推奨する。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

スリが多発していた。自分の身は自分で守ること。特にメロはスリが多い。日本の感覚で行動しないよう気をつけた。また胃腸の不調を訴える参加者が散見されたため、常備薬は必ず持っていきたい。

④留学に要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃:12万円 授業料+住居費:43万円 食費:5万円 娯楽費:4万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

なし

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

文化施設が多く、学生割引も広く認められている。

土日が全てフリーであったため、近隣諸国へ旅行に行く参加者も多かった。

留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

大学院生がチューターとして配属され、親身になって対応してくれる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は閲覧スペースが少なく、すぐに学生で埋まってしまう。

市中心部に位置するためスポーツ施設は存在しない。学内のカフェテリアが安価で昼食時には有用であった。

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

海外の視点を学ぶことができたことは大きな収穫であった。グローバル化で文化面の類似性は高まっているものの、やはり日本とヨーロッパとは考え方の大きく異なる点が多数存在する。また、日本を違った視点から捉えなおすことも可能となった。

日本人向けのプログラムということで、日本人で固まってしまって外との接点が小さくなる危険性の高いプログラムであるが、Sciencespoの学生・教職員は親身に接してくれる存在であり、主体性を持って取り組めば十分に現地の人々と交流することができる。また逆に、日本人学生が多いことによって、日本人学生から学ぶことも多い。様々な大学から学生が集まっており、本学内部では得られない視点を学ぶことができるだろう。

②留学後の予定

国内大学院に進学する。ただ、今回の留学で海外大学院への正規留学に関心を強めたので、そのための情報収集・準備も行いたいと考えている。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

決して安くないプログラムであるが、主体性を持って取り組めばその金額に見合う成果は得られると考える。

日本人学生が多く安心感がある面から、1年以上の長期留学の前の準備として参加するのもよいかもしれない。

ただ行くだけでは得られるものが限られてくるので、目的意識はきちんと持つようにしてほしい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東京大学での所属学部/研究科・学年(渡航開始時): 教養学部 2年  
留学先大学: パリ政治学院 留学先所属学部/研究科等: European Studies Programme  
卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 ②.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業 6.起業 7.その他( )

**留学先大学の概要**  
パリ政治学院はヨーロッパでは名門の文系大学で多くの政治家を輩出してきた。また政治学のみではなく多彩な分野をカバーしている。

**留学の動機**  
フランス語の勉強とヨーロッパの現状を知りたいと思ったため

**留学の準備**  
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)  
授業料の振込期限の表記が application form に小さく書いてあるので見落とさないように気を付けよう。  
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)  
特になし  
③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)  
特になし  
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
保健に関しては個人で契約をした。  
パリ政治学院に提出する書類にはフランス語で保険のことが書いているが、そちらは長期滞在用なので保険には加入していないを選択する。  
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)  
成績証明書などを発行した。  
⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)  
英語に関しては TOEFL iBT90 以上が条件である。  
フランス語に関してはしゃべれなくても差し支えなかったと思う。  
⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど  
爪切りなどを忘れないようにした方がよい。

**学習・研究について**  
①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)  
ヨーロッパと諸外国の違い  
EUの拡大  
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)  
基本的にはEU及びヨーロッパの国々の歴史と現状について説明を受けた。  
政治体制や環境問題への取り組みなどについて利点と欠点および他の国々とう違うかなどがメインだった。  
④学習・研究面でのアドバイス  
ヨーロッパの政治体制について予備知識がないと授業についていくのはきついかもかもしれない。  
しかしパリ政治学院の図書館の本で勉強すればなんとかなる。  
⑤語学面での苦勞・アドバイス等  
フランス語が話せなくても英語で通している人もいたので何とかかなると思う。  
このプログラムに入ればフランス語力があがることは間違いない。

**生活について**  
①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)  
Citadines というキッチン付きの小さいホテルで一部屋 2-3人で一か月生活した。  
部屋はこじんまりしていたが生活に必要なものはそろっていた。  
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)  
Citadines がある Place d'Italie はあまり治安が良くないので夜に一人で出歩くことは控えること。

基本的にパリは交通の便はなんの問題もなかった。  
大学は町の中心部にあり授業の合間に観光や散策をすることができた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)  
特になし

④留学に要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)  
計算していないのでわからない

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)  
奨学金は受給していない

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)  
休日はサッカーを見に行ったりと観光をしていた。  
レポートを一日中作る日もあった。

留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)  
英語が喋れるインストラクターが5人ほどいて、その人たちがサポートをしてくれた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)  
大学自体はそこまで大きくはないが図書館にはヨーロッパの文献が多く興味深かった。  
大学内はwifiが飛んでいて生徒は無料で使うことができる

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感  
パリ政治学院への留学を通じて文系教科である政治学という分野にも視野が開けた。  
また日本から遠く離れたヨーロッパの現状を目にすることができ、考えさせられることも多くあった。

②留学後の予定  
理系学科に進路を進めることになると思うが、今回のプログラムで得た文系的な考え方、知識、経験を活かしていきたいと思う。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス  
パリ政治学院へ留学することで普通の生活をしていたら得ることのできない貴重な経験をすることができます。  
この経験は何物にも代えがたいものであり、学生として自らの進路を考えさせられるような価値のあるものです  
是非参加してください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物  
GO GLOBALのWEBページとFacebookページ